

平成 29 年度 第 1 回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時： 平成 29 年 10 月 17 日（火曜日）
議事 午後 3 時 ～4 時 30 分
本館収蔵庫・郷土資料収蔵庫見学 午後 4 時 30 分 ～5 時 30 分

会 場： 新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員： 10 名
阿部紀夫、生田雅之、伊藤裕美子、大月優子、小黒 忠、
小島勝治、里村洋子、島 吾郎、杉本耕一、寺山知子 （敬称略）

欠席委員： なし

傍 聴 者： なし

事 務 局： （博物館） 頓所洋一館長、神田直子学芸員（主幹）、塩原賢信主査
曾部珠世嘱託
（地域課） 佐々木勇課長（副区長）

資 料： 当日配布（資料 1、2、3、4）

会議概要

1 開会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信 主査

ただいまから平成 29 年度第 1 回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。
本日は委員 10 名が出席され、会議は成立しています。
傍聴者はありません。

2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・頓所洋一 館長

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。今回は、協議会委員の改選後、初めて開く協議会ですが、委嘱日の 4 月 1 日から、半年経ってしまいました。少し早い時期に開催したかったのですが、事業の関係で開催が遅くなり、本日ようやく開催することが出来ました。

また、去る 9 月 15 日の「葛塚地域公共施設のこれからを考えるWS（対策案）説明会」では、協議会という形はとりませんでしたでしたが、皆さまから様々なご意見をいただきました。大変ありがとうございました。

今回の議事は、お手許の資料にありますように、「当館の概要について」、「平成 29 年度前期の事業報告について」、「平成 29 年度後期の事業計画について」の審議をお願い致します。

前期事業につきましては、おかげさまで、計画に沿って実施することができました。今年度の大きな出来事は、横井の丘ふるさと資料館が耐震審査の結果、休館をしていることです。本日の会議で皆さまからご意見、ご指導をいただきまして、適切な運営を心掛けたいと思いますので、よろしくお願い致します。

3 委嘱状の交付、及びあいさつ 佐々木 勇 北区地域課長（副区長）

- ・平成 29 年 4 月 1 日付けで委嘱した新委員に委嘱状を交付。
- ・あいさつ

今年の 4 月から北区地域課長を兼務しております佐々木です。皆さまにおかれましては、日頃から当館の運営につきましてご尽力をいただき、御礼申し上げます。皆さまには 4 月 1 日に協議会委員に就任していただいておりますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

博物館につきましては、皆さまから様々なご意見をいただきまして、展示機能と収蔵機能を分離することなく、将来的に福島潟エリアへ移転する運びで、来月地域別実行計画がとりまとめられるのではないかと考えています。ただ、この建物は現在でもかなり老朽化が進んでおりまして、どのようにして適切な維持管理を行っていくかということについては悩ましい問題です。地域の宝を収蔵し、展示しているこの博物館の運営につきまして、どうぞよろしくお願ひ致します。

4 新会長・副会長の選出

- ・各委員の自己紹介
- ・職員紹介
- ・会長・副会長の選出
- ・会長に杉本耕一委員、副会長に寺山知子委員が、満場一致で選出される。

5 新会長・新副会長あいさつ

（杉本会長） 博物館のために、協議会会長として出来る限りのことを行っていきたいと思いますが、それには皆さんのご協力が必要です。どうぞよろしくお願ひします。

（寺山副会長） 出来る限り、博物館のために、地域のためにがんばりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

6 議事

（杉本会長） では早速、議事に入ります。

まずは会議次第の議事（1）新潟市北区郷土博物館の概要について、博物館から説明をお願いします。

（1）新潟市北区郷土博物館の概要について

（頓所館長） 資料 1 「新潟市北区郷土博物館 概要」に基づいて説明

1. 基本構想（活動趣旨、テーマと機能的役割、事業（常設展示、企画展示、普及活動、収集・保存、調査・研究）について説明。
2. 施設の概要（本館、横井の丘ふるさと資料館（分館）、郷土資料収蔵庫（合併建設計画））について説明。
 - ・横井の丘ふるさと資料館が耐震の問題で現在休館中であることを報告。

- ・郷土資料収蔵庫は、議事の後に見学を予定していることを説明。
- 3. 新潟市北区郷土博物館収蔵資料について説明。
- 4. 新潟市北区の県指定・新潟市指定文化財について説明。
- 5. 新潟市北区の国登録有形文化財について説明。
- 6. 新潟市北区郷土博物館関係法律・条例・組織規則等について説明。

・補足説明

9月15日の「葛塚地域公共施設のこれからを考えるWS（対策案）説明会」の折に、「登録博物館は観覧無料でなければならないか」、あるいは「移転に伴う観覧料の有料化について」等、委員の方々からご意見・ご質問が出されました。資料に博物館法、条例の資料がございますので、ここで説明させていただきます。

博物館法の第23条に「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない」とありますが、但し書きとして「博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる」とされています。

平成25年時点での社会教育調査において、902館の登録博物館のうち776館が、有料と定めています。登録博物館は無料が原則とされていますが、実際は、必ずしも無料ということではないようです。ただ、減免措置、あるいは中学生以下無料などといったような配慮がされていることが多いかと思っておりますので、「有料」「無料」の実態はよくわかりません。

登録博物館である当館の条例第8条でも、観覧料及び使用料は無料とされていますが、但し書きにより「観覧料を徴収することができる」状態になっています。

【質疑応答】

(里村委員) 902館の登録博物館のうち、776館が有料ということですが、これは公立博物館の数ですか。

(頓所館長) 公立だけではなく私立も含まれています。また分野別では、当館のように「総合博物館」の場合は、かなり高い割合で有料化されています。

(伊藤委員) 横井の丘ふるさと資料館は、休館中ということですが、実際、その中で活動しているサークルがあるということ、また、休館中に「特別な見学」を一回実施したということですが、一般市民の「特別な見学」は可能でしょうか。

(頓所館長) 横井の丘ふるさと資料館の特別公開ということについては、これは一般市民への公開ということではなく、研究者に対する協力という形で行ったものです。県外の木崎村の小作争議の研究者への対応として、レプリカの旗を特別に閲覧していただきました。

(伊藤委員) 山口賢俊コレクションの展示は今後どのように考えていますか。

(頓所館長) 山口コレクションにつきましては、常設展拡大企画など、特別な機会において、計画的に順次展示公開をしていきたいと考えています。その他にもまとまった資料(コレクション)がありますので、それも同様に考えています。

(伊藤委員) 資料を展示するだけでなく、体験できる資料と体験スペースがあるとよいと思うのですが、その点についてはどう考えていますか。

(頓所館長) 博物館の資料である以上、大切に保存していかねばなりません。民具だからといって、博物館資料である民具を、体験の目的で活用していくわけにはまいりません。ただし、今後、寄贈者の理解を得られるのであれば、(保存しなければならない博物館資料とは別に)体験のための資料として寄贈していただき、それを活用していくことも可能になるかと思えます。

(阿部委員) 横井の丘ふるさと資料館についてです。

最近、現在の新潟市東区出身の若槻菊枝さんの生涯を扱った『若槻菊枝 女の一生』(奥田みのり著、2017年、熊本日日新聞社発行)が新潟日報でも大きく取り上げられました。著書のなかで、菊枝さんの父が関わった木崎村小作争議の現場を取材した記述がありまして、横井の丘ふるさと資料館について次のように紹介されています。「無人の資料館なので、隣の保育園から鍵を借り、来場者自らが資料館の鍵を開けなければならない」。

話題になっている著作物で、市内の図書館でも貸出しが多いと聞いています。横井の丘ふるさと資料館が休館中だということを知らずに訪ねたり、照会する人がいるかもしれませんので、木崎保育園に連絡をしておいた方がよいと思います。

(頓所館長) 現在、保育園には鍵を預けておりません。改めて保育園と連絡をとりたいと思います。耐震診断の結果、休館を余儀なくされたわけですので、基本的には休館という姿勢を保たねばならないと思います。その上で、なかにある資料を市民にどのように見ていただくかということを考えていきたいと思えますので、ご理解をお願い致します。

(伊藤委員) 横井の丘ふるさと資料館の2階には、「むかしの暮らし」をテーマとした民具が展示されていて、冬期に小学校が団体見学に来ているかと思えます。この資料が、休館ということで、見られなくならないようお願いしたいと思います。

(頓所館長) 昨年度から始まった常設展拡大企画で、小学校の「ふるさと学習」に対応できるように、その時期にあわせて「昭和の暮らし展」を本館で行っております。この企画では、横井の丘ふるさと資料館のなかの資料も展示しています。今年度も、「昭和の暮らし展2」を11月末から翌年2月まで開催します。横井の丘や福島潟の郷土資料収蔵庫にある資料のなかの、生活に関するもので構成します。また、会期中、集会室を使って体験の場を設けます。

小学校の博物館利用についても、昨年度、学校に対し、常設展の解説会を行って働きか

けを行っているわけですが、今年も11月8日には北区小・中学校の地域コーディネーターの勉強会があり、当館の常設展示も見ていただくことになっています。また、12月には北区の校長先生方の講習会が予定されていて、その折には、当館の展示も見学していただくことになっております。こどもたちが学習しやすいように、ふるさと学習のテーマと関連づけた事業としたいと思っています。

(島 委員) 横井の丘ふるさと資料館のなかに現在ある資料のことを考えますと、さきほどお話にあった木崎争議の旗などの重要な資料は、本館で展示して、常時みられるようにするなど、なにか対策ができるかとよいですね。

(頓所館長) 資料の公開は、計画的に進めさせていただくということでご理解いただきたくお願い致します。基本的にはスタッフの(人数、体制の)問題がありまして、現状に加えての新しい事業や試みにすぐに対応することが難しいのが実情です。その方向で検討させていただくということで、少し時間をいただければと思います。

(2) 平成29年度前期の新潟市北区郷土博物館事業報告について

(神田学芸員) 「平成29年度前期の事業報告」を資料2に基づいて説明する。

(杉本会長) ただいま平成29年度前期の事業予定を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

【質疑応答】

(島 委員) 新潟県の羽越水害復興50年記念事業としての巡回パネル展と、博物館独自で併催した特別企画「北区の水害」展は感動しました。特に旧豊栄町の高校生が撮影された8ミリを復元したDVDを拝見しましたが、貴重な資料だと思いました。また、日本画家梁取幹雄先生の図画教室の子どもたちが水害の記憶をもとに共同制作した絵画の5連作の公開にあたっては、ドラマがあったと聞いております。

年度でいいますと昨年度ということになりますが、今年2-3月の「上田桑鳩展」で展示された弦巻松蔭先生の作品で、水原高校の生徒たちのために書き、生徒たちが今持って大事にしているという「真善美」には、心洗われる思いが致しました。

(阿部委員) 私も、羽越水害50年記念事業は、ただ巡回パネルを展示しただけでなく、旧豊栄町の7.17水害にスポットをあてた「特別展示」を企画してくれて、非常によかったと思います。ただ、入館者が思ったより少なかったことが残念でした。もっと大勢の人にみてもらいたかったです。

(伊藤委員) 羽越水害復興50年記念展は、博物館が、歴史を語り継ぐ機能を有し、また使命を持っているということを知り、周知するよい機会となったと思います。

(寺山委員) 「こども博物館」のなかの①「はくぶつかん体験コーナー」の企画は、夏休みの「公共施設利用促進バス事業」に伴う事業ですが、延べ155人が参加されたというのは素晴らしいですね。その中で、北地区(旧新潟市北地区)からの参加者はどのくらいですか。

(頓所館長) 残念ながら、バスを利用してこられたのは、数人です。この事業の参加者の殆どが、葛塚東小学校のひまわりクラブの児童です。博物館の向かいにあるため、こちらからお誘いをして参加していただきましたが、大変好評でした。

(寺山委員) バスの利用者が少なかったのは残念です。もう少し、北地区からの参加者があるとよかったですね。

(杉本会長) 羽越水害を経験された方がだんだん少なくなっています。これを機会にそうした方々の記憶を記録して残していくということがなされれば、さらにこの企画の意義も深まるのではないかと思います。

(3) 平成29年度後期の新潟市北区郷土博物館事業計画について

(神田学芸員) 「平成29年度後期の事業計画」を資料3に基づいて説明する。

(杉本会長) ただいま平成29年度後期の事業計画を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

【質疑応答】

(伊藤委員) 「歴史みに講座」の広報について教えてください。

(頓所館長) 9月24日の市報、10月1日の区報でお知らせしています。また、新潟日報に10月14日に紹介していただきました。やはり新聞の力は大きく、新聞掲載後に、数人の申込みがありました。ちなみに第1回目の参加者につきましては、定員40名と設定したなかで20名でした。北区のさまざまな地域のことについて学んでいただきたいと、取り組み、初回は北地区公民館で開催しましたが、区外からもご参加いただきました。

(伊藤委員) 「歴史みに講座」の広報の期間が短かったので、知った時にはすでに予定が入っていて参加できないのですが、早くご案内をいただけるといいなあと思いました。

(伊藤委員) 2頁目の(6)にある地域活動支援で、講座講師の紹介とありますが、これはどういうものですか。

(頓所館長) 新潟市の一つのツールとして、「私たちは〇〇といったテーマの講座を提供できますよ」という「さわやかトーク宅配便」があります。当館では、この事業に参加していません。職員が、館外におけるこのような多様なニーズに対応できるような体制になっていないのが実情です。しかし一方で、博物館の外でもそういった講座に対応できる方々がいらっしゃいますので、地域の方々からご相談があった場合、そういう方々を紹介できるようにしていきたいと考えております。そしていずれ、スタッフがそろった段階で、「さわやかトーク宅配便」ができるとうよいと思っています。

(小島委員) 博物館では絵画作品もたくさん所蔵されていて、美術館の役割もはたしているということが今回わかりました。絵画 172 点を含む美術作品のうち、購入したものと寄贈を受けたものの内訳を教えてくださいたいと思います。

(神田) 現在、手許に作品の購入と寄贈の内訳の資料がございませんので、正確にはお答えできずに申し訳ありませんが、大部分が寄贈により収集されたものです。購入作品ももちろんあります。例えば、「郷土作家シリーズ」という美術企画展が旧豊栄市博物館時代から続いておりまして、そこでの出品作品を購入するというケースなどです。当館は、郷土の資料を収集している博物館ですので、美術資料に関しても、殆どが郷土ゆかりの作家の作品を収集してきています。もちろん、それ以外の作品もあります。例えば弦巻松蔭のコレクションに含まれていた作品であったり、また、旧豊栄市としての事業（「郷土」の枠を超えた活動）の過程で収集されたりしてきています。

(寺山委員) 「美術のなかの自然」は、常設展拡大企画ということで、ホールだけで行うということですが、それでは作品があまりたくさん展示できないと思うので、もったいない気がします。できれば、集会室も使って展示していただきたいなあと思います。

(杉本会長) まだまだご意見等がある方もいらっしゃると思いますが、次の会、あるいは博物館に直接伝えるという方法もあろうかと思っておりますので、よろしく願い致します。

(4) その他

(頓所館長) 資料 4 としてお配りしていますものは、9 月 15 日に行いました「葛塚地域公共施設のこれからを考えるワークショップ（対策案）説明会」の議事概要です。皆さまのご意見を記録して今後に伝えていく必要があると思ひまして、関係課の了解のもとで作成いたしました。このように博物館の長期的な方向性・計画もまとまってきつつありますので、皆さまには動向を注視していただき、必要なことがあればまたご意見を頂戴してまいりたいと思います。よろしく願い致します。

(杉本会長) これで議事を終了します。みなさま大変お疲れさまでした。

7 閉会

— 議 事 終 了 —

■本館収蔵庫・郷土資料収蔵庫の見学

・本館収蔵庫見学

収納資料の分野・種類の説明

収納状況、管理状況の説明

職員 館長、神田、曾部、佐々木地域課長（副区長）

見学者 （新任委員と希望者）阿部委員、伊藤委員、大月委員、小島委員、
里村委員、島委員、寺山委員

・郷土資料収蔵庫見学

収納資料の分野・種類等の説明

収納状況、施設・設備概要、管理状況の説明

職員 館長、神田、曾部、佐々木地域課長（副区長）

見学者 （新任委員と希望者）伊藤委員、大月委員、小島委員、島委員